

公明党 研修報告書

令和2年3月16日

ふじみ野市議会
議長 小林 憲 人 様

ふじみ野市議会 公明党
代表 伊藤 美枝子

ふじみ野市議会公明党所属伊藤議員が令和2年1月28日、2月4日、2月11日の日程で一般社団法人地方議員研修会が開催した研修会に、鈴木議員が令和2年1月27日、2月10日、2月18日の日程で一般社団法人地方議員研修会及び株式会社地方議会総合研究所が開催した研修会に参加したので報告する。

1. 研修日及び研修項目

(1) 「災害に対する地方議会の対策・対応」

講師 神奈川大学法学部教授・弁護士 幸田 雅治氏
令和2年1月27日（月）午前10時～午後1時

(2) 「少子高齢化時代の健康政策」

講師 大阪市立大学大学院 都市経営研究科教授 永田潤子氏
令和2年1月28日（火）午前10時～午後0時30分

(3) 「家庭教育支援から取り組む合理的な社会投資とは」

講師 家庭教育支援センターペアレンツキャンプ代表理事 水野達朗氏
令和2年2月4日（火）午前10時～午後0時30分

(4) 「10年目までの議員向け特別セミナーⅠ」

講師 日本公共経営研究所代表 宮本正一氏
令和2年2月10日（月）午前10時～午後0時30分

(5) 「医学博士が教える認知症対策特別講座」

講師 日本公共経営研究所代表 宮本正一氏
令和2年2月11日（火）午前10時～午後0時30分

(6) 「新人議員になったら抑えておきたい議員の基礎知識」

講師 株式会社ICT推進部会会長 君島雄一郎氏
令和2年2月18日（火）午前10時～午後0時30分

2. 研修内容及び所感

(1) 「災害に対する地方議会の対策・対応」

地方議員は常に地域の要望や問題についての情報をつかんでいることが大事で、その情報を災害時に執行部に正確に迅速に伝える責任があることを学んだ。またそれに対応できるような災害本部、委員会などが必要である。自治体の中でも同様の対策では通用しない場合もあり、状況に応じて判断しなければならない。復旧段階で生活支援が遅れる地域があってはならないし、大きく環境に違いのある自治体では、復旧・復興段階で地域の決定力があるような仕組みが必要かもしれないと感じた。

(2) 「少子高齢化時代の健康政策」

全体的にディスカッション形式で行われた。始めに高齢化社会の定義について、高齢化率（65歳以上の人口割合）が1970年（昭和45年）に7.1%となり、既に50年前から高齢化社会となっている。14.6%となった1995年（平成7年）に高齢社会となり、2020年（令和2年）には29.1%となり、超高齢社会の21%をはるかに超えている。世界の高齢化率の推移をみても、欧米・アジアともに日本が群を抜いている。（2015年現在：日本26.6%、ドイツ21.1%、韓国13%）

今後の介護施設等の問題を考えても、人口の多い都市部ほど深刻となる。国民所得に占める社会保障給付費の割合も右肩上がりに推移しており、今後いかに自治体における健康政策・健康づくりを行っていくかが鍵となる。

経済格差は、健康格差につながることや健康政策はすべての年代で捉え考えられる事を学んだ。現代は、大人よりも子どもたちの健康格差が問題とのことであった。いかに健康や検診に関心のない人を健康政策に巻き込んでいくかが重要と感じた。本市においても、元気健康のまちづくりの一環として「ふじみん元気・健康マイレージ事業」を実施している。歩くことでの健康効果は、血圧や糖尿の数値が改善するなどで上がっており、さらに医療費の削減にもつながっていると認識している。さらなる効果を高めるために何ができるか、今回の講義を基に考えていきたい。

(3) 「家庭教育支援から取り組む合理的な社会投資とは」

家庭教育とは、すべての教育の出発点であり、子どもが社会に適応し、活躍するために必要な力を家庭で育む教育であり、親が適切に家庭教育を行えるようにサポートをするのが家庭教育支援にあたる。平成18年の改正教育基本法において家庭教育に関する条文が新設された。

第3期教育振興基本計画の教育をめぐる現状と課題では、家庭の状況が1人親世帯の割合が増え、世帯構造の変化や地域社会の変化に伴って、子育て

に悩み不安を抱える家庭が増えていることや、それらの悩みや孤立感を持っている親子の育ちを応援する環境づくりについて述べられている。

昔は、家庭・学校・地域が支える力が強く、相互連携が図られていたが、現在は家庭・学校・地域の支える力が弱くなり、その隙間を中間支援機関（塾・民間支援機関・行政の支援チーム）が埋めている構図とのことだった。理想の形としては、家庭教育が充実することで、子どもに自立心や社会性、生活習慣や規律教育などの効果が現れ、その結果、教師が学科指導など集中できるようになり、働き方改革にもつながる。また、地域とのつながり方を親が知り、活用することで、意識の高揚や地域力の向上になるとのことであった。

本市においては、ふじみ野市版コミュニティ・スクール（地域協働学校）を実施し、学校を核とした人づくり・まちづくりを目指している。講義の中で、先進市の家庭教育支援の取組も紹介して頂いた。その中から、本市でも取り組めるものなどを考察していきたい。

（４）「１０年目までの議員向け特別セミナーⅠ」

参加者にどんどん質問したり答えさせたりする方式で進められた。私も地域をどう盛り上げていけばいいのかを講師に質問、相談する機会もあった。今回学んだことは、自分のやろうとする仕事を達成するためには仲間が必要なこと、先輩議員に学ぶことと自身で考えることがあること、市長、議長の仕事についてなどである。多くの方々の支持を頂いたからこそ当選した議員は市を株式会社とすると株主である。ゆえにその責任は非常に重いこと、支持して下さった方々のことを常に頭に置いておくようにとの話があり、肝に銘じておくこととした。

（５）「医学博士が教える認知症対策特別講座」

医学博士ということで、まず認知症の症状についての説明とアルツハイマー型認知症とレビー小体型認知症では、検査方法が違い対処方法もそれぞれに工夫が必要であることが理解できた。

その後、介護保険制度や今後の状況などについて説明があった。

認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）にもある「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す。」ためにも、7つの柱を中心にできるところからの取組をさらに進めていきたい。認知症については、これまでも先進地の視察や講演会などで学び、今後確実に増えるであろう認知症対策の取組を提案してきた。現在、認知症サポーターも学校でも学習し、着実に増えている。認知症サポート医による「物忘れ・認知症相談」の実施やかかりつけ医による認知症対応、また、徘徊をされる方への対応としてGPS付位置探索など、さらに改善できるところへの提案もしていきたい。

(6) 「新人議員になったら抑えておきたい議員の基礎知識」

初めに地方議員についての法律や条例の紹介があった。そして違法行為、気を付けるべきことについて丁寧に説明があった。参加者それぞれの市町村の財政状況について大きく書き出してあり、比較してどうなのかが一目瞭然だった。もちろん余裕があればいいということではなく、市民サービスがしっかりなされているかどうか重要だということも付け加えられた。その中で本市（ふじみ野市）の予算内訳明細書が素晴らしいと（非常に詳しく、項目ごとに本年度のみならず前年度が並んで記載されていること等）スクリーンで紹介されとても嬉しく誇らしく感じた。

とにかく議員一年目は勉強、そして得意な分野をもち、そこから広げていくようにとの話があり、そのように力をつけていきたいと思った。